

# 東建パブリニューズ

平成30年4月17日

経営管理本部 広報IR室

《このニュースは、当社に関連する記事が掲載された新聞・雑誌等の情報を逐次、速報するものです。》

掲載

平成30年4月16日 中日新聞 P.20

●当社に関する記事の掲載がありましたので、以下の通りご報告いたします。

## 重永ツアー初V

ゴルフ

■東建ホームメイット・カップ最終日(15日)・三重県東牟婁郡名古屋17081町、パーナ  
首位から出た29歳の重永斗夢が2バーディー、2ボギー、1ダブルボギーの73で回り、通算12アンダーの272で逃げ切ってツアー初優勝を決めた。優勝賞金2600万円を獲得した。  
4打差2位からの逆転を狙った石川遼は1打及ばず2位。さらに1打差の3位に金庚泰(韓国)が入った。時松隆光が通算9アンダーの4位、片山晋呉は通算8アンダーの5位だった。

東建ホームメイット・カップ最終成績	賞金(万円)
①重永斗夢 12 272=64・72・63・73(38・35)	2600.0
②石川遼 11 273=63・68・72・70(35・35)	1300.0
③金庚泰 10 274=69・71・66・68(33・35)	884.0
④時松隆光 9 275=66・69・69・71(36・35)	624.0
⑤永野竜太郎 8 276=69・70・67・70(35・35)	453.3
⑥朴相賢 7 276=70・72・64・70(37・33)	453.3
⑦片山晋呉 7 276=71・69・65・71(35・36)	453.3
⑧李尚賢 7 276=65・73・65・73(38・35)	453.3
⑨小嶋剛 6 277=69・72・68・68(35・33)	366.6
⑩古田幸希 6 278=67・72・72・65(35・30)	301.6
⑪末永 6 278=70・72・66・70(35・35)	301.6
⑫末永 6 278=67・68・70・73(36・37)	301.6

### 攻め果敢 熊本と前へ 11年目29歳



優勝トロフィーを手に、家族と記念写真に納まる重永斗夢

石川1打及ばず2位  
○石川は6年ぶりに本格復帰した国内ツアーの初戦で1打及ばず2位。序盤からショットが安定せず、ラ

フに打ち込む場面が目立った。最終の2バーディーで追い上げたものの「重永さんの攻める気持ちが上だった。強かった」と素直に認め

今大会は新選手会長としてファンサービスにも奔走し、この日も試合後は多くのギャラリーにサイン。「選手会長としては百点でしょう」と笑

点。今の自分では今日のプレーが精いっぱい」と納得。最後の18番で理想とするスイングができたといい、「収穫はあった。次につながる」と前を向いた。

最終ホールは第3打であと10ヤードに寄せた。花粉症対策のマスクを初めてはき取った重永の顔が緩む。「人生が変わる」と胸を熱くして放った、初のウイニングパット。右のこぶしを静かに握り締める。熊本市内の自宅から駆け付けた二人のまな娘を「夢だった」とグリーン上で抱きかかえた。  
6番でダブルボギーをたたき、前半で三つスコアを落とし、石川に1打差まで迫られた。かつてはミスショットが続くと「あといくつスコアを落としたり10位以下になる」と落ち込み、勝ちきれない要因となっていた。  
優勝者の資格が問われたのは、1打差のまま迎えた17番パー5。7位のイーグルチャンスで「ショットだけはしない」と果敢にカップを狙った。結果はわずかにオーバーしてバーディーにとどまったが、「今までのように寄せにいらしたら18番に流れをつなげられなかった」。  
最終ホールもティーショットを石川の前に飛ばし、2打でグリーンオン。ライバルに追従の余地を与えなかった。  
故郷が被災した熊本地震から丸2年での勝利に「(世間の震災の記憶が)風化しつつもある。こういう時期に勝てた意味はある」と思いをはせる。プロ転向11年目で、賞金ランキングは1昨年の40位が最高。自信になったか、と問われ「ちよっと」と笑う29歳。復興へと歩む故郷とともに自身も少しずつ前に進む。  
(原田遼)